みどりを育む
横造協だより

発　行　Vol.30
一般社団法人　横浜市造園協会
広報委員会
横浜市中区尾上町1-6　住友生命横浜関内ビル７階
TEL 045-662-9897　FAX 045-664-5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

創刊30号を迎えて

16年の歳月の重さを感じる

協会のあゆみ

当協会は戦後横浜市の造園業界で主に公共事業を手掛けてきた数社を中心に、造園技術向上等を目標に任意団体として造園協力会を設立しました。その後、造園事業量の増大とともに業者数も増え、造園技術はもち論のこと社会的地位の向上を図るため平成7年10月に社団法人横浜市造園協会を発足しました。また今年度4月1日からは、新公益法人制度により一般社団法人として認可を受け、より一層の事業の充実と社会貢献が求められています。

記念の座談会

「横造協だより」は平成10年10月に第1号を発行し、今回で30号の発刊を迎える事が出来ました。生駒会長を交え広報紙発行に携わっていただいた、5名の方にそれぞれの想いを話し合っていただきました。

会長
生駒隆一

初代広報委員長
山田康博

元広報担当理事
新堀清

前広報担当理事
矢部均

広報担当理事
石井直樹

司会
広報委員長
斉藤正昭

広報活動として「横造協だより」発行

社団法人になる前は、ただの親睦団体に過ぎなかったが、法人格を取得したことにより世間に認められた団体となりました。また発注者の信頼を得る為に、協会の数々の活動内容を広く行政や業界に伝えるために広報紙の必要性を感じたからです。

造園協会は「研修会等を積極的に行い勉強して良い仕事をしています」というアピールをするためです。

女性技術者紹介「樹木に魅せられて」のコーナー

平成13年10月発行の第6号から、業界で働く女性技術者のパワーを紹介しようと思いました。

第1回目は協会員の社員の方にお願いしましたが、業界だけでなく横浜市の緑に係る職員の方にもお願いをするようにしてきました。

また第2回（7号）にご執筆をいただいた方には今回11年ぶりに再登場をお願いしました。

全国に先駆けた横浜市造園技術交流会

交流会は、平成9年度に横浜市と当協会が技術の向上を図りたいということで発足しました。工事や委託のパトロールや公園見学会を実施しています。横浜市と業界とが定期的に行うこのような会は全国では横浜市だけなのではないでしょうか。

現在まで行っている事業が、この当時から引き継がれていることは素晴らしいと思います。

提供：（一社）日造協神奈川県支部

平成21年度に実施の横浜みどり税について

横浜みどり税について、我々は特に緑化推進（緑をつくる）の部分に注目をしています。

今年度で最初の5年間が終了しますが、今後新たな緑を創出し、市民に親しめる緑をつくることが必要と思います。

街路樹が住民からの苦情処理のために、景観や樹形にとらわらず切られてしまうという現状です。身近な緑としてもっと維持管理に重点を置いて欲しいと思います。

エノキ（平成17年寄贈）

災害対策を考え防災公園を視察

兵庫県の県立三木総合防災公園の視察を一昨年おこないました。

災害時に避難場所となり、緊急車両が入れるフラットな状態が出来ていました。

横浜市もこのような避難場所となるような、公園の整備を進めて欲しいものです。

また、日造協神奈川県支部主催の街路樹フォトコンテストは、神奈川県内に「こんな素晴らしい街路樹がある！」とういうことを広め、県民が自分の地域にもそのような街路樹を作って欲しい、と思ってもらうことを狙いとしているのです。

一般の人の声を役所に届かせる為です。

このようなことも参考にしてもいいかもしれませんね。

みなとみらい地区を中心に横浜の緑を考えたい

みなとみらい地区は、石畳が多く緑が少な過ぎます。外国からのお客様を迎えるにしても、もっと大経木を植えて、緑陰を増やす必要があると思います。

桜木町駅前にも観光の中心となる大経木が欲しいですね。

当協会では平成17年に赤レンガ倉庫前に、もっと大きい木を植えて欲しいというアピールの為にエノキを寄贈しました。

また、横浜開港150周年では、150万本植樹行動に協力し市内150本余の樹木を寄贈しました。

こうした取り組みを、協会として今後も続けて、みどり溢れる横浜を目指していきたいと考えます。

公共緑化事業の担手として

今後とも若い人たちにより積極的に活動に参加していただきたいと思います。先人達が築き上げた造園技術を市民の為に、協会として公共の緑化事業のお手伝いが出来ればと思います。

さらなる広報活動に向けて

この話し合いを振り返って、16年の年月の重さをとても感じました。今回ご参加いただいた5名の方はじめ沢山の方々に支えられて、今日を迎えられたことに感謝いたします。

広報紙誕生の経緯から、やはり最終的には横浜の緑に関しての話題になってしまいましたが、全国都市緑化フェアを横浜での開催を検討する、との市長の考えが明らかにされましたが、早期の開催実現が待ち遠しいです。

そのためには、横浜の緑を守り育てる協会としても惜しみない協力や努力をしてまいります。

より良い開かれた広報活動のため、会員のご意見や情報、話題の提供をお待ちしております。

高齢化が進んでいる現在、バリアフリー化対策をも考えた公園が望まれますね。

◇

規模の大きい公園を新たにつくることもさることながら、既存の公園も、避難しやすい公園に整備を進めていくことが必要と思います。

祝 創刊30号「横造協だより」は協会と社会を「みどり」で繋ぐ

協会の多くの皆さまにご支援をいただき、平成10年10月14日に創刊された「横造協だより」が30号を迎えました。ありがとうございます。関係役員より頂戴いたしました記念のお言葉を紹介いたします。

創刊号　横造協だより

◆会長挨拶◆

●総務委員会●

●企画委員会●

《横浜市造園技術交流会》について

創刊号は、モノクロでした

お祝いを申し上げます。

歴代の広報委員長及び委員の方々に心より感謝申し上げます。

協会の目的は、「造園工事に関する技術の向上及び安全管理等の指導、花と緑の街づくり実現、啓発普及事業等を行い、横浜市民の生活環境の向上及び公共の福祉に寄与、会員相互の支援・交流・連絡等、会員に共通する利益を図ることを目的とする。」とあります。

その目的を達成するために多くの事業活動を行っています。

また、近年は、異常気象が続く中、「横浜市と当協会の災害協定における具体的な取り組みについて」訓練の実施等災害に備えていくことも協会の使命と思っています。

これらの活動を「横造協だより」を通して、行政や市民に発信していくことが重要と考えています。

「協会事業の一層の充実を」

会長　**生駒　隆一**

当協会の広報紙「横造協だより」が発行以来、30号の節目を迎えました。今まで発行に携わった関係者各位に深く感謝を申し上げます。

紙面を通じて横浜市造園協会の活動が協会員や行政機関、各団体に理解されたと思います。

今年の4月より一般社団法人横浜市造園協会として再出発いたしました。これまで以上に研修会や講習会、安全指導など協会事業を充実させ、また地域の緑化活動、社会貢献事業に積極的に取り組んでいかなければなりません。

これからも、迅速な情報提供や広報活動を伝えていただきたいと思います。

「時代の変化を越えて」

副会長　**渡邊　宣昭**

「構造協だより30号」記念号の発刊にあたり、一言、造園の仕事は実に多種多様の道具を使う。

滑車や三又、チェンブロック、突棒（石つき、筋鉄）、腰道具、土木作業道具、計測器等々、数えきれないほどある。

「道具は職人の命だ。大事に扱え」と親方に言われ、バケツにタワシで全て洗った。

「道具は職人の命だ」

副会長　**松倉　仁**

道具を使い熟すと、仕事に「心」が入り良い仕事ができる。然すれば道具に感謝し手入れを怠らない。仕事にも自信がつく。

その逆に使い方を間違えたり、あなどると怪我をする。道具に教えられることはたくさんある。道具を大切にする人は仕事に気構えを感じる。

「臨海部に立体的な緑を」

副会長　**田澤　重幸**

私は釣りが大好きで、時間があれば船を出して東京湾から房総半島、伊豆七島のあたりを季節に合わせて旬の魚を追って釣り歩いています。

大島に行くと島の緑が本当に良い漁場を作っている事に気が付きますし、海の色にも感激します。三浦、内房も良いのですが、やっぱり島の周りの海はまるで違います。

東京湾内も、中ノ瀬を始め良いポイントもたくさんあって、初冬から始まるスミイカは特に好きな釣りの一つです。

南本牧や根岸湾、大黒ふ頭の周辺に良く行きますが、船から陸を見るとコンクリートばかりでがっかりします。

もっと臨港部に立体的な緑があふれていれば「目のさめる様な港ヨコハマ」になると思うのですが…。

「明るい未来の予感」

理事　**荒井　秀利**

リーマンショック後、政権は民主党へ交代し、横浜では「みどりアップ計画」が策定され、記憶に残る東日本大震災が発生しました。

震災と原発事故の後処理を自民党政権が引き継ぎ、今「がんばろう！日本」という合言葉と共に、全国各地で復興支援が行われています。

明るい話題として、2020年オリンピック・パラリンピック東京招致決定のニュースは、国民の喜びと共に、我々造園業界にも明るい未来を予感させてくれます。

「広報活動に発信力を」

広報担当理事　**石井　直樹**

東京オリンピックを7年後に控え、隣接する大都市横浜の役割は大きく、市民が緑を守り育む仕事に対し、期待も高くなっております。横浜市造園協会はNPOや他団体との繋がりの中から、幸せで魅力のある横浜の一翼を担うべく、その責任を果たしてまいります。

広報担当の理事として、発信力のある活動をして行きたいと思います。30号発刊にあたり各理事の皆様、熱い想いを寄せて頂きありがとうございます。

「ハマの都市緑化に貢献したい」

緑の諮問担当理事　**山田　康博**

林市長の2期目がスタートしました。これからの4年間で、火災に強い都市空間の形成、広域防災基地の整備、港と街の魅力アップ、緑あふれる都市づくりに向けた都市緑化の強化や横浜みどりアップ計画の推進等が盛り込まれています。

長年待ち望んだ都市緑化フェアの開催、防災公園の整備、美しい街路樹並木、まちかどの緑化等、当協会の果たす役割は重要です。

会員の皆様とともに横浜の緑溢れる街づくりに向かっていきたく思います。

「広報委員会に敬意を表して」

専務理事　**佐藤　安春**

この広報紙も20号から30号までの年2回発行の5年間は、順調に推移したように思われるが、広報委員会の皆様方にとっては常に大変な努力の積み重ねであったことに、先ず敬意を表します。

これからも、取上げる記事特に1面また催し物、紙面がマンネリ化しないか、読み難くないか等々、委員の方々のご苦労は多いと思いますが、ご健闘を！

●横浜造園協会の歴史

年	名称	会長	事務局
昭和45年	横浜市造園協力会	—	森田晃（書記長）
昭和 55 年	横浜市造園協会	渡邊健次郎 藤巻保之輔	力石恵子 大矢正夫
平成 7 年	社団法人 横浜市造園協会	生駒武敬 藤田孝次 藤巻司郎	松浦加奈 小松原一男 米山光二
平成 25 年	一般社団法人 横浜市造園協会	生駒隆一	佐藤安春 大野可枝子

資料提供　顧問　藤巻司郎

「先人木を植えれば、後人涼し」。「みどり豊かな横浜の街」を次世代へ

「情報は業界活動の指針」

企画担当理事　**篠原　友周**

広報紙「構造協だより」発行30号おめでとうございます。ひとくちに30号と言われても、たいへんな歴史、重みを感じます。広報紙に携われた方々ご苦労さまでした。

これまでには、いろいろなことがあったでしょう。まるで自分を振り返るような気持ちになります。

「よくがんばったね」の一言に、尽きると思います。良い事もあれば、大変なことも、広報紙を見ればその時代の移り変わりがわかります。

情報等が、今後の業界の躍動の基になり勉強になる指針です。

業界に不可欠な情報紙だと思います。いつまでも続く事を祈っています。

「子供の将来に豊かな緑を」

安全担当理事　**吉田　直治**

少し前まで里山だった所も造成され、年々緑が失われていく。山で遊ぶ事も、海や川で遊ぶ事も少なくなった子供たち。地球温暖化や放射能の心配など、子供の将来に不安な事ばかり。

我々の力でできる事は実行して、将来を担う子供たちが安全で安心して生活できるように、みんなで頑張ろう！

「都市に 将来の子供たちに緑を」

総務担当理事　**田口　英明**

今、都市の「緑」には、温暖化・ヒートアイランド現象の緩和という絶大な役目が課せられています。

大都市「横浜」は10年前には人口３５０万人、緑被率31％から、現在人口３６４万人、緑被率29％を割る事態です。

「環境」は急務な課題です。建築、土木とインフラの整備では終わりつつあります。

「造園」には街路樹、公園、屋上庭園、壁面緑化とできることは多種多様です。将来の子供たちに残せることを再発見しましょう。

「キーワードは技術力だ」

技術担当理事　**池田　英明**

生き残りをかけた厳しい競争の時代ですが、これからは、もう厳しいという言葉は封印して、明るい未来に向かって上を向いて元気よく前進していこう。

生き残り～成長へのキーワードは「技術力」だと確信します。

施工技術はもちろん、事業を営む上での広義の経営技術まで、優れた技術力を持つ企業だけが競争を勝ち抜いていくのだと思います。

技術委員会の担当理事として、微力ながら協会員の皆様の技術力向上のお手伝いができればと思います。

「若輩理事のひとり言」

理事　**土志田　淳**

福沢諭吉の心訓の一つに『世の中で一番尊い事は、人の為に奉仕して決して恩にきせない事です』とあります。

つまり、協会活動そのものに私利私欲を排し協会の為に汗する事が、会員として最も尊く美しい姿であると考えます。

そして、会員一人ひとりがこうした自負心をもち、将来を担う次世代の為に何ができるかを熟慮し行動することが、いま我々に課せられた〝他人任せにしない本気度〟と〝使命感による奉仕〟ではないでしょうか…。

「緑の財産を引き継ごう」

理事　**浦野　修**

大都市横浜に暮らしてみると、緑の多いことに驚かされます。先取性に富んだ土地柄であり文化や行事の多様さ、そして緑の多さに生活環境の豊かさを感じます。長年住むと当たり前のことが、他都市と比較すればその良さがより鮮明です。

この豊かな緑を子供達に「緑の財産」として引き継いでいくこと、「先人木を植えれば、後人涼し」、協会員の使命として皆様と頑張っていきたいと思います。

「市民に向けた優れた広報活動」

監事　**北村　豁**

横造協だよりが発行されて、30号。大変長い月日と、大勢の方々の努力によって、見やすくきれいで充実した内容で構成され業界では見劣りしない広報誌であると思います。

一般社団法人として市造園協会は、一般市民に向けた内容も盛り込み、また一般市民からの声や会員と市民団体などの社会貢献事業を広く伝える内容も必要かと思います。

市民の方の意見も時折耳に入ります。その一つに『みどり税』です。街路樹は街を美しく演出し公園の樹木は潤いを与えるものと思いますが、最近、管理が行き届かず、見栄えがなく、潤いもない。しっかりとみどり税で管理してほしいという意見です。

市造園協も、これに応える活動をしていく必要もあるのではないかと思います。

「緑と共存できる未来を目指して」

理事　**永吉　克哲**

緑が我々にあたえてくれる効用は大きく、緑で安らぎ、癒されています

マンション・ビル・狭小住宅・駐車場が増え、緑が減る傾向にある今日、緑の空間を確保するために様々な方法がとられ、校庭・園庭の芝生化や屋上・壁面緑化等今まで緑がなかった場所にも植物たちが生活を始めています。

しかしこの植物たちが安住しすくすくと育ち、質の良い・潤いのある空間を形成していくためには、高い技術と工夫が今後も必要となっていくでしょう。

人間の生活に不可欠な緑を育んでいくことのできる造園業界に関わるものとして、緑との共存が上手にできる未来を目指して努力を重ねていきたいと思います。

「潤いと安らぎを次世代に」

監事・前広報担当理事　**矢部　均**

今年の夏は各地で大変な猛暑でした。また後半は大気不安定で、竜巻や、落雷で大騒ぎだった。そういう物騒なものと違ってこれから秋の夜空には流れ星というショーがみられる。

流れ星は宇宙空間の「チリ・ホコリ」なのだ。星とは違う。

ただこのショーを見ることの条件は、上空が澄んでいること。急激な地球の変化、益々緑の大切さ、必要性を痛感します。

人々に潤いと安らぎを与えてくれる緑、この緑をつくり、育て次世代に引継ぐ今、自分達に何ができるか…。

「協会の歴史を刻み、次の時代へ」

元広報担当理事　**新堀　清**

横造協だより、記念の30号を迎えることができ、喜びはひとしおです。この「たより」を振り返ると、十五年間の社会情勢、造園協会の活動等が一目でわかり、私たちの貴重な財産となる歴史を刻み込んできたことがわかります。

先行きの見通し辛い時世ですが、五年後の40号に向けて「緑豊かなまち横浜」を目指し、新たな気持ちで踏み出し、次の時代に繋げて行けるよう一歩一歩確実に前進して行ければと思います。

「情報を発信し続けて」

元広報担当理事　**笠原三貴也**

広報紙「横造協だより」が記念すべき30号を迎えました。

協会員のみなさまご意見、ご要望等を頂き、支えられてきました。

良質な情報発信を続けることで、各方面に呼びかけ多様な方向性を生み出してもきました。

広報委員会の皆さんが手分けして情報を収集し議論し伝え方の工夫をされた賜です。

そしてこれからも、協会員企業の向上に役立つような情報発信をし続ける広報紙であることを願っています。

第36回 通常総会を開催

5月23日ホテル横浜ガーデンにおいて第36回通常総会を開催した。提出議案について慎重審議し、いずれも原案通りに承認された。

第1号議案
平成24年度事業報告(案)の承認について

第2号議案
平成24年度決算報告(案)の承認について

第3号議案
役員改選（案）の承認について

総会終了後ご来賓をお迎えして「ハマの緑を育むつどい」を開催した。

4月、一般社団法人に移行

横浜市造園協会会長　**生駒　隆一**

本日は大変お忙しい中、「ハマの緑を育むつどい」に林市長様はじめ多くの市幹部、自民党横浜支部連合会の先生方にご臨席をいただきまして誠にありがとうございます。

この育むつどいの前に、当協会の総会がありまして新しく新理事、新役員が決定いたしました。会長私と副会長渡邊・松倉・田澤でございます。今後も新体制共々ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

当協会は今年の4月1日に一般社団法人に移行いたしました。これを機会に市造協が果たした役割を再確認し、造園建設業の社会的地位の向上と地域貢献事業等の諸活動に協会員一体となって取り組む体制を強化してまいります。

造園建設業界を取り巻く経営環境は公共事業の削減、入札契約制度の改革等により価格競争の激化、雇用環境の悪化など急激に変化し厳しい状況に置かれております。更には少子高齢化社会に伴う熟練技能者、若年入職者の減少により技術技能の継承の困難化など、造園建設業の持続的発展が妨げられるような状況が進展しております。

新たな政治体制がスタートし大胆な金融緩和、大規模な財政出動が打ち出され景気回復への明るい兆しが見えるものの、依然として先行き不透明であり今後の成長戦略の立案などを通じて明るい未来を展望できる状況が到来する事を期待しております。

私達横浜市造園協会はこれまで長年に亘り養ってきた知識技術力に更なる研鑽を重ね、磨きをかけ、その発揮の場の拡大に力を注ぎ、市民の要望に的確に応え、社会的使命を果たす所存でございます。

横浜市造園協会発展の為に会員一丸となって、時代のニーズに応えるべき活動を行ってまいります。皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願いを申しあげます。

《平成 25・26 年度　役員名簿》

役職名	氏　名	事 業 所 名
顧　問	藤巻　司郎	藤造園建設（株）
相談役	藤田　孝次	（株）三橋緑化興業
会　長	生駒　隆一	生駒造園土木（株）
副会長	渡邊　宣昭	横浜植木（株）
〃	松倉　　仁	一造園土木（株）
〃	田澤　重幸	（株）田澤園
専務理事	佐藤　安春	事務局
理　事	荒井　秀利	アライグリーン（株）
〃	石井　直樹	石井造園（株）
〃	坂田　　宏	（株）サカタのタネ
〃	篠原　友周	篠原造園建設（株）
〃	吉田　直治	相武造園土木（株）
〃	田口　英明	田口園芸（株）
〃	永吉　克哲	（株）永吉緑化
〃	池田　英明	日光緑化建設（株）
〃	土志田　淳	横浜庭苑（株）
〃	浦野　　修	横浜緑地（株）
監　事	北村　　豁	（株）きたむら園
〃	矢部　　均	（株）三橋緑化興業

緑は横浜の重要な魅力

横浜市長　**林　文子**

本日は第36回横浜市造園協会通常総会の開催、誠におめでとうございます。

木々の緑が日に日に濃さを増しまして、まさに「ハマの緑」が豊かに育まれている事を実感できる季節になりました。

皆様には日頃から横浜の緑の育成を始め市政全般にわたる大きなご支援をいただいており、改めて心から感謝を申し上げます。今年のスプリングフェアも、皆様方による見事な花壇が、横浜の春の街並みを美しく彩り、多くの方々に癒しと感動を与えてくださいました。

また、皆様方に長きにわたりご協力をいただき整備を進めてまいりましたズーラシアでは、先日、おかげさまで最後のエリアでございます「アフリカのサバンナ」の一部が、オープンを迎えることができました。

そして6月1日からは、ここ横浜で「第5回アフリカ開発会議」が開催されます。アフリカをはじめ世界からいらっしゃるお客様をおもてなしする上でも、美しい緑や花は、大変重要な都市の魅力の一つです。

この大都市・横浜を豊かな緑で彩り、魅力的にしてくださっているのは、造園協会の皆様方に他なりません。豊富な経験と技術を生かして整備していただいた公園、心を込めて手入れをされた樹木や花は、横浜を輝かせ、都市としての品格を形作り、見る人々の心を動かします。

おかげさまで、この度のアフリカ開発会議をはじめとする横浜の観光ＭＩＣＥの取組や、美しい街並みを舞台に展開する芸術アクション事業は、内外から多くのお客様を惹き付けており、国際都市・横浜の存在感がますます高まっていることを感じます。

また、緑豊かな公園は、小さなお子様や子育て世代の方々をはじめ、あらゆる市民の皆様にとって心癒される憩いの場です。横浜市では子育て世代の方々をご支援するために、保育所待機児童の解消に力を注いでまいりました。そして先日、民間事業者様をはじめ様々な方のご協力によるゼロ達成を発表することができました。

皆様方にお力添えをいただいております「横浜みどりアップ計画」は今年度、最終年度を迎えました。これまでの4年間で実に横浜公園65個分に相当するおよそ４００ha の樹林地を保全することができました。26年度以降の「これからの緑の取組」につきましては、先生方や造園協会の皆様からご意見をいただきながら計画をまとめ、施策を進めてまいります。緑の保全と創造は、継続して進めるべき大変重要な取組です。

結びになりますが、横浜市造園協会の益々のご発展と、ご列席の皆様のご健康、ご活躍を心からお祈りいたしまして私のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

平成25年度労働安全衛生大会を開催

7月4日ホテル横浜ガーデンにおいて横浜南労働基準監督署長、横浜市環境創造局長はじめ道路局幹部の方々、各区土木事務所長をご来賓に「平成25年度労働安全衛生大会」を開催した。本年度も労働災害ゼロを目指して安全標語入選者表彰、優良現場表彰、安全宣言を行い、片寄基準監督署長に災害事例のご講演、第２部は環境創造局技術監理課と「安全対策講習会」を行った。

安全標語講評

最優秀賞に選ばれた㈱きたむら園　北村善輝さんの標語は、日常業務の中で自身が励行されている安全意識を、日常の言葉で素直に表現している。これこそ事業所と社員が一体となって、日頃の安全活動推進の「安全標語」だと評価された。優秀賞の標語も、安全意識を広めて災害を未然に防ごうという、積極的な姿勢が高く評価された。

入選標語

《最優秀賞》
決めたこと
守る勇気と続ける努力
皆で続けるゼロ災職場
㈱きたむら園　北村善輝

《優秀賞》
一人一人が責任者
慌てず焦らず安全作業
毎日続けるゼロ災害
㈱新正園　菅原みずほ

毎日変わる危険場所
気づいたあなたが責任者
みんなで目指せ　ゼロ災害
㈱田澤園　田中正樹

災害は慣れと油断と
思いこみ
リスクを見直し安全作業
㈱三橋緑化興業　根岸成年

みんなで育む緑の芽
みんなで摘み取る危険の芽
みんなで伸ばそう無災害
㈱大和園　森田　勝之

この標語と共に今年度一年間労働安全衛生活動を推進することをお願いしたい。

優良現場表彰

㈱みやした園芸
獅子ケ谷市民の森ほか十か所維持業務委託

㈱佐藤造園
鶴見区街路樹維持業務委託（その二）

㈱杉本造園
旭区公園維持業務委託（その二）

樹木に魅せられて（第25回）

横浜市環境創造局
南部公園緑地事務所
門脇 よう子

立派な木々に懐かしさ

街中を車で通り過ぎる時、車窓から何気なく外を見ているとき、ああここは知っているという気持ちになったり、どこからかただよってくる香りで、心に懐かしい思いがいっぱいになることがあると思います。

私も仕事で関わることができた公園や街路樹にであうと、その当時の思いが溢れてきて、公園が人間であれば抱きつきたくなる気持ちになることがあります。

それも20年30年もたっていればなおさらです。時間がたっているため、公園の遊具等の施設は以前よりきれいに様変わりしていますが、建設当時に植えられた樹木達は、りっぱに成長し、その公園を表す顔の一つになっていることもあり、そんな公園に出合うと本当に嬉しくなります。

地域とともに根づく公園

横浜市では、昭和30年から40年代の高度成長期の住宅開発により田んぼや畑、小川、雑木林、さらに自由に遊べた空き地もなくなりました。そのような場所がなくなることと反対に、横浜市の公園数は増加していきました。もちろん面積も大小様々で、その時代、時代の要望や課題により公園に求められるものは変わっていきました。

しかしながら、都市化により失った自然や空間を公園だけで十分に確保することは、出来ませんでした。それでも公園は、地域の方々とともに時間をかけてその地域の大切な広場、遊び場、緑陰として育っていきました。

四季を楽しませてくれる樹木

公園を見ていると、園路は朝の散歩から通勤、通学の路となり、広場は子供さんたちのサッカーから大人のゲートボールの練習場になり、さらに夏の盆踊りやお正月の凧揚げ、あるいは四季折々のイベント等の広場として使われています。

公園の樹木達も、初春の芽吹き、春の花々、初夏の新緑、夏の木陰、秋の落ち葉、冬の木立のシルエットと一年中を通して私たちを楽しませてくれています。

公園の樹木は、以前横浜にあった雑木林や森の量や質には及びませんが、蝉や蝶や鳥等の多くの小動物達にとって生育するための大事な緑の環境となっています。

人間にとって重要な役割

そんな公園の樹木たちも、落ち葉や日陰の問題により伐採や強剪定の危機にあうこともあります。当たり前にあると思っている樹木がある日突然、伐採されてしまうこともあります。樹木は光合成によって酸素を供給してくれるだけでなく、雨などの水分を地中に保水し、その水をゆっくりと蒸散することで、大気中の雲や雨に戻し、空気中の温度や湿度を快適に保ってくれるなど、人間が生きていくなかで重要な役割を果たしてくれていることを私たちは忘れがちになっています。

樹木の声に耳を傾けて

現在もそして未来の環境を考える上で、また他の生物との共存を考えていく上で、私たちは、もっと樹の声に耳をかたむけることが大切になってきていると感じています。

公園が私たちにとって心地よい大事な空間としてこれからも存続して欲しいと、夏の空に広がる樹木をみつめながら思いました。そんな樹への短歌と俳句です。

はなよりも　かなしきものは　きぎのめの
ひとときけむる　いろにぞありける　　林　望

緑蔭に　わたる大幹　やわらかに　　中村　汀女

公園の樹木たちへ

《平成25・26年度　各委員会組織表》

委員会	担当理事	委員長	副委員長	委員
総務	田口英明	石山昭夫	阿部耕三 高橋　卓	齋地　亘・杉本健一・田野井章 村田典生
企画	篠原友周	永吉克哲	相澤正章 望月俊宏	金子富俊・小菅勇一・福岡栄治 山田裕之
広報	石井直樹	斉藤正昭	真田達夫	荒井隆佑・岸　聡志・北村善輝 渡邉　忠・笠原和弘・小関欣一
技術	池田英明	青木洋一	石田力也	菊地雄一・早坂尚生・堀江伸吾 松村　学
安全	吉田直治	相澤　剛	石井勝弘	稲垣　誠・豊田仁義・小原邦和 根岸成年・藤白幸一
緑の諮問	山田康博	土志田淳	越川雅彦 藤巻慎司	増田一志・小林新一・粟飯原勉 後藤修久・山田裕之

第30回全国都市緑化とっとりフェア開催

ぜひ横浜でフェア開催を

花壇を出展して

㈱永吉緑化　永吉克哲

第30回全国都市緑化とっとりフェアが9月21日～11月10日まで、湖山池公園を主会場として開催されている。

今回、自治体出展の花壇について、横浜市環境創造局から横浜市造園協会に出展の依頼があった。それを受け、会員から花壇のデザインを公募し、審査会を開催。最優秀賞の作品のデザインを採用することとした。

また、9月24日に役員が現地視察をした。

でしたので、氷川丸・中華街・ベイブリッジを花で形取り、見てくださる方に一目で『横浜』とわかっていただける港横浜を凝縮させたデザインとなっております。

とっとりフェアのテーマは「ともに育てる身近な緑」で、会場となる湖山池公園も草花が豊富な自然たっぷりの場所で約600種30万株以上の植物を見ることができます。

鳥取に自生する草花を中心に彩られたナチュラルガーデンや、鳥取砂丘の「砂」を素材にした彫刻作品「砂像」と可憐な草花を組み合わせたアースガーデンなど、鳥取らしさで溢れています。

横浜も、港横浜、異文化交流横浜、緑の丘横浜、色々な特色がある魅力ある都市です。

ぜひ横浜でも都市緑化フェアを実現できたらと思います。

全国都市緑化フェアは、財団法人都市緑化機構と地方公共団体が主催で行われる地方博覧会です。

1983年から毎年開催されており、都市公園又は都市公園の設置が予定されている場所を会場として行われます。

都市緑化を全国的に推進し、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的としていて、毎回開催される都市の特色を活かした工夫あふれる展示が見所です。

とっとりフェアは第30回目にあたり、今回横浜市造園協会として初めて参加することとなり、弊社のデザインの花壇が採用されました。

今回、横浜らしさを取り入れたデザインということ

横浜市造園技術交流会

横浜市造園技術交流会事業は、造園工事に関する技術の向上及び安全管理を行政機関等と協力し、より一層の業界のスキルアップを図るもので、今回は公園施設見学研修会の開催及び工事安全パトロールを実施した。

公園施設見学研修会を開催

開催日
5月29日

研修場所
俣野邸別邸
よこはま動物園ズーラシア
アフリカサバンナ

説明者
公園緑地部公園緑地整備課
担当係長（南部担当）
松本昭弘氏
担当係長（大規模担当）
岩間隆男氏
㈱田澤園
濱田園・櫻井造園ＪＶ
藤造園建設㈱
奈良造園土木㈱

参加者
横浜市造園技術交流会　5名
当協会　59名

よこはま動物園ズーラシアではオープンした新エリアと施工中の現場、また俣野邸別邸庭園は2年前に見学した施工中の現場が一部開園し、その推移が研修出来た。また、工事担当者からの説明を受けた。

よこはま動物園ズーラシア・アフリカサバンナ

俣野邸別邸

第28回工事安全パトロールを実施

実施日時
3月14日（木）

点検重点事項
今回のパトロールは横浜市造園技術交流会事業の一環として、環境創造局発注工事の現場において、安全管理の状況を合同で巡視することにより、更なる安全管理体制の強化を図ることを目的に実施した。

パトロール箇所
南本宿第三公園整備工事
横浜動物の森公園草原エリア整備工事

総評
施工箇所が複数に分かれ工種が錯綜している現場では、整理整頓が不十分になりやすい事。また休止中の現場にも、確実な安全管理への配慮が必要。

横浜市長賞　㈱永吉緑化「Spring」

褒章授与式

よこはま花と緑のスプリングフェア2013「花壇展」が、当協会員20社と横浜農業協同組合にご協力いただき、4月20日から5月6日の17日間、山下公園で開催された。

今年は開催場所を噴水近くの芝生広場となり、通路を挟んだ両側に色彩豊かな花壇を来場者に味わっていただいた。

また「庭木・庭づくり相談コーナー」や堆肥の詰め放題のイベントも盛況だった。

コンクール褒章授与式は、4月30日に開催され、受賞者はじめ出展社が出席した。

◇◇ コンクール結果 ◇◇

横浜市長賞
㈱永吉緑化「Spring」

横浜市会議長賞・市民賞
㈱植勘「ミラー」

横浜市環境創造局長賞
藤造園建設㈱「段々花壇」

公益財団法人横浜市緑の協会理事長賞
㈱滝川園「希望のかけ橋」

神奈川新聞社賞
大橋庭園㈱「春風の中で」

みどりアップ奨励賞
㈲福岡造園「ようこそサバンナへ」

出展協力社（花壇番号順）
㈱大和園・㈱濱田園・㈱春峰園・藤造園建設㈱・東都造園㈱・㈱植勘・相武造園土木㈱・横浜庭苑㈱・四季造園㈱・㈲福岡造園・㈱新正園・堀江造園㈱・㈱港薬品造園・㈱滝川園・㈲日向山庭園・田口園芸㈱・㈱誠和緑化・㈱永吉緑化・横浜農業協同組合・常盤造園㈱・大橋庭園㈱

瀬谷区道路祭り2013に協会員6社10名が出展協力

8月2日、瀬谷区北口広場に於いて瀬谷区役所主催の瀬谷道路まつり2013に当協会瀬谷区の会員6社10名が出展協力をした。

開催趣旨

国土交通省が1986年に8月10日を「道路の日」と制定し、例年8月1日から31日までの1ヶ月間「道路ふれあい月間」として道路啓発活動が全国展開されている。

これを受け瀬谷土木事務所（橋本健所長）を中心に恒例の道路啓発イベントを開催した。

◇

道路を利用している皆様に、道路の正しい利用の啓発や道路愛護思想の普及を図り、道路を安全で美しく利用する気運を高めていただくことが目的です。

このイベントを通じ、道路に携わる私たち造園の仕事を紹介するとともに、当協会の紹介及びPR、花と緑の街づくりに関する啓発等を図った。

訃報

谷野富美子氏
6月26日（享年85）
㈱大和園代表取締役
谷野繁氏　ご母堂

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

終わりの言の葉

『横造協だより』発行30号の節目を迎え、広報委員一同喜ばしく思っています。

この30号までの紙面を読み返すと、業界を取り巻く環境の変化、時代の流れ、協会の成長を感じます。これは、歴代の理事、委員長、そして、広報紙に携わって頂いた沢山の方々のご尽力の賜であり、その時々の時代背景を読み取りながら、守るべきものは守りつつ、新しいものを取り入れていった結果と考えます。今後もこの姿勢を受け継ぎ、時代と共に成長していく一般社団法人横浜市造園協会の姿を行政や市民に発信していきたいと思います。

（広報委員K）